

(様式4)

令和5年2月24日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立富山工業高等学校
校長 篠原俊一郎

令和4年度学校総合評価を(様式5)とともに提出します。

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において、全日制では4、定時制では2、合計6の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等はアクションプランに記載したとおりである。

学習指導の充実では、互見授業について報告したが、授業の実施件数や指導方法の向上だけではなく、次年度につなげる指導という意味でクラスの雰囲気も見て欲しいとの意見があった。生徒指導の充実については、校地内でスマートフォンの電源を切ることについて、校則違反であることを知りながら使用しているのは悪質であり、次年度は指導方法についてアクションプランを取り組んで欲しいなどの指摘があった。進路指導については、第一希望で受験した企業の内定率の高さを評価いただいた。特別活動に関しては、生徒会と代議員が体育大会や球技大会、文化祭などの計画立案を行い、参加意識を高めていく取り組みに対して、生徒の満足度は高く十分な成果だと評価をえた。定時制の重点課題については、資格取得を活用した学習指導では、資格の合否も重要であるが、積極的に取り組む姿勢が必要であるとの意見をいただいた。生徒指導では、健康上の理由で休む生徒と心の問題で休む生徒の見極めをしっかりとすることにより、さらに生徒へのフォローが充実すると意見をいただいた。

学校評議員会は2回開催し、重点課題について説明と報告を行った。評議員の方々からは、本校の取り組みについて評価をいただくとともに、数多くの示唆に富んだご助言や力強い励ましの言葉を頂戴した。こうして伺ったご意見を、今後のより良い学校経営に生かしていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 今年度の学校評価の結果に基づき、本校の現状と課題について職員全体で謙虚に受け止め、計画の改善と取り組み体制の強化に努めていく。
- (2) 達成目標の妥当性を十分に検討し、また具体的な調査方法についても工夫して、重点課題への効果的な取り組みを目指す。
- (3) アクションプランを公開することにより、学校の取り組みに対する地域や保護者の理解を頂き、学校とのより緊密な連携を目指していく。
- (4) 本学校評価システムを通して、職員全体が学校の教育活動への共通理解を深め、生徒の人間形成や自己実現に向けた、真に有意義な教育活動に結びつけるように努める。

8 学校アクションプラン

令和4年度 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	学習指導の充実
重点課題	主体的に学習に取り組む意欲と学力の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の不足や学習内容への関心の低さ等から、学習意欲に乏しく、授業への参加に消極的な生徒が増えてきている。また、家庭学習においては、レポート等の課題は行っているが、予習復習などを行っていない生徒が多いことから、家庭学習を習慣化させ、学力の向上を図る必要がある。 ○ 1人1台タブレット端末の配備に伴い、生徒が興味・関心を持ち、主体的に取り組むことができるようICT機器の活用を推進していかねばならない。
達成目標	<p style="text-align: center;">互見授業の実施回数</p> <p style="text-align: center;">年45回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9月と1月に互見授業週間をそれぞれ1週間設ける。 ○ 互見授業を通して、学科・教科等でのデジタルコンテンツの情報を共有し、授業改善につなげる。 ○ タブレット端末の効果的な活用法を教員研修等で共有し、その利用を推進する。
達成度	<p style="text-align: center;">互見授業の実施回数</p> <p style="text-align: center;">合計45回 【37回(9月)+8回(1月)】</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2学期の9/12～16の1週間と、3学期の1/16～20の1週間に、互見授業週間を設定し、先生方に、他の先生の授業をみてもらうようにした。 ○ 授業でのタブレット使用方法などを教員間で共有し、活用するように努めた。 ○ 「Forms」を利用して、互見授業に関するアンケートを教員に実施し、メリットや問題点等を挙げる事ができた。
評 価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>多くの先生が互見授業に参加して頂いた。ほとんどの先生より互見授業を実施して「良かった」と回答を得た。教員がタブレットを使用した授業が昨年よりも増えている。今後、生徒1人1台タブレットを活用しての授業をおこなえるようなコンテンツを増やしていきたい。</p>
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互見授業は教科・学年を問わず、関心のある授業をされる先生やクラスを参観して、参観後は、教科指導のアドバイス等を授受しているとのことであるが、次の学年につながる指導という意味で、互見授業では指導方法だけでなくクラスの雰囲気も見て欲しい。
今後に向けての課題	<p>3学期の互見授業週間においては、実施回数が2学期よりも大きく減ってしまった。理由として、インフルエンザによる学級閉鎖があり、時期的に良くなかったと感じている。</p> <p>教員のアンケートより、「タブレットPCを活用して授業をしているが、科目によっては活用できていない授業もある」という意見や、「タブレットPCの使い方が参考になった」といった意見もあった。今後、ますます教員は教育支援ツールの活用技術を身につけておく必要があるため、今年度の取り組みは一定の効果はあったと考える。ただ、まだ活用方法を模索している教員もいるため、ただ授業件数を増やすだけでなく、タブレットを活用した授業改善例や効果的な活用方法等の情報共有を、教員間で進めていく必要があると感じた。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 富山工業高校アクションプラン -2-			
重点項目	生徒指導の充実		
重点課題	生徒の主体性を高め規範意識の醸成を行う		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全確認不十分による事故が減らない状況が続いている。 ○ 校内ルールを認識しているにもかかわらず、安易に携帯通信機器を使用し、指導を受ける生徒がいる。 		
達成目標	自転車事故件数、携帯通信機器の使用に関する指導数		
	自転車事故：撲滅するため前年度比減を推進（前年度 30 件） 携帯通信機器使用に関する指導数：前年度比減を推進（前年度 30 件）		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒に主体的に事故原因やルールについて考えさせ、自分の安全やルールについての意識を高める。 ○ 富山工業高校生であることに誇りを持たせ、「富工ブランド」を育成することにより、所属する責任と規範意識の高揚を図る。 ○ 自転車事故を分析し、原因・対策を周知することで、生徒が危険予知を行う習慣を身に付けさせる。 ○ ICT リテラシーの醸成を図り、携帯通信機器に依存しない生活を確立させる。 ○ ○ 保護者や地域の方と協議する場で現状の問題点を共有し多方面からの指導を実践する。 		
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車事故件数：20件 [R5.1.17 現在 R3：30件 R2：27件] ○ 携帯通信機器に関する指導数：24件 (R5.1.17 現在 R3：23件 R2：25件) 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日の登校指導のほか、学期の節目に「生徒指導部通信」により、富山工業高校生としての自覚と責任を高揚させる。 ○ 発生した自転車事故の状況を分析した「事故報告書」をクラス掲示し、危険予知能力を養うことと、STなどで事故防止の呼びかけを行った。 ○ アンケートなどで各自の携帯通信機器の使用状況を認識させ、適切に使用できるよう呼びかけを行うとともに、休み時間での巡回指導など直接的な指導も実施した。 ○ 服装や社会でのマナーなど具体的なプリントを教室掲示し、富山工業高校生としての品格を自覚させるとともに、日常生活習慣などについても適正化できるよう指導に努めた。 ○ 各学年・各学科と連携をとり、生徒に関わる情報を共有し、多面的な生徒指導を行った。 		
評 価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 15%;">A</td> <td>昨年度に比べ自転車事故件数は減少している。携帯通信機器使用に関して横ばいで推移している状況である。</td> </tr> </table>	A	昨年度に比べ自転車事故件数は減少している。携帯通信機器使用に関して横ばいで推移している状況である。
A	昨年度に比べ自転車事故件数は減少している。携帯通信機器使用に関して横ばいで推移している状況である。		
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内において携帯電話の使用は禁止されているというルールを知った上で使用があるという事は悪質である。指導の数ではなく、次年度は指導方法についてアクションプランの課題にしてはどうか。 		
今後に向けての課題	富山工業高校生としての3年間というスパンの中で工業人としての自覚と教養をもたせるために、日頃の生活習慣や規範意識などを高める事が大切である。そのために教員間の連携を深め、生徒理解を深化させていく事が重要と考える。		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 富山工業高校アクションプラン -3-

重点項目	進路指導の充実	
重点課題	生徒の希望に応じた進路決定への取り組みを充実させる	
現 状	○ 自らの進路選択に対して主体的に取り組むことが苦手であったり、自己肯定感が希薄な生徒が少なくない。一昨年より全学年でキャリアパスポートを導入し、進路指導の一助としている。課題達成のためには、生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒が主体的に進路選択をできるように段階に合わせて指導していくことが大切と考える。	
達成目標	3学年における就職希望の達成度（一次推薦応募先の合格率）	
	95%	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、求人数の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが希望する企業についての生きた情報を収集し、その上で応募先を決定させる。 ○ 進路面談室の利用しやすい環境を整え、受験報告書や企業に関する資料閲覧、就職相談等に対応する。 ○ 面接指導や応募書類作成等、全教職員の協力を得て、個に応じたきめ細かい指導を行う。 	
達 成 度	97.2%（昨年度95.8%）	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理職、各学科、3学年、進路指導部で分担し、約100社の企業に電話連絡をして採用計画や卒業生の就業状況などの把握に努めた。 ○ 求人票受付後は、求人一覧を作成して掲示し生徒に配布した。また、今年度より求人票を生徒がタブレット端末で閲覧および検索できる「富工 求人検索ネット」を構築し、スムーズな企業研究が行えるようにした。 ○ 昨年度に引き続き、就職希望者に対して複数社の応募前職場見学を実施した。応募先について、しっかりとした比較検討をした上で決定した。※見学企業数2.6社/人 ○ 面接試験などの採用試験対策を、学年・学科・管理職との連携により実施した。 ○ 就職二次推薦で応募可能な企業を把握し、生徒の希望に応じて情報を提供した。 ○ 3年生を対象に卒業生による進路体験講話を実施した。 ○ 製造業・建設業を中心とするインターンシップ（7月初旬に3日間）を実施し、県内企業124社で2学年生徒が就業体験をした。 ○ 昨年度に引き続き、全生徒がキャリアパスポートの作成を通して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行う取り組みを行った。 	
評 価	A	一次推薦応募先の合格率は目標を達成することができた。不合格となった生徒は6名（民間企業2名、公務員4名）であった。
学校評議員の意見	○ 1次希望で内定する大学生は多くない。この達成度は素晴らしい。評価Aが妥当である。	
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早い段階からの進路目標の設定を促し、個々の生徒に対応したサポートを行う。 ○ 社会から求められる人材の育成を目指した指導を行う。 ○ 学校生活全体を通して、高校卒業後の将来について主体的に考えることを意識させる。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 富山工業高校アクションプラン -4-

重点項目	特別活動の活性化（生徒会活動と学校行事）	
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした学校行事の活性化	
現 状	○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進する。	
達成目標	体育大会、球技大会において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。 ※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。	
	運営・企画に積極的な参加意識度	体育大会 75%
	学校行事に対する満足度	体育大会 85%
方 策	○ 体育大会に向けて代議員会・運営委員会・団集会・係り打ち合わせを複数回開き、学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。球技大会について生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、かつ体育委員、関係部活動部員などが意欲的に企画・運営に参加し満足できることを目指す。	
達 成 度	運営・企画（体育大会 79%・文化発表会 84%・球技大会 65%） 満足度（体育大会 97%・文化発表会 89%・球技大会 90%）	
具体的な取組状況	体育大会……運営委員会、団集会、新型コロナウイルス感染予防の徹底と工夫 文化発表会……代議員会、新型コロナウイルス感染予防の徹底と工夫 球技大会……代議員会、運営系の指導、新型コロナウイルス感染予防の徹底と工夫	
評 価	B	体育大会は生徒の参加意欲も高く、自分たちで主体的に良い大会にしようという意識が表れやすいが、その他の行事は、与えられて参加するだけという考えの生徒が多い。
学校評議員の意見	○ 運営・規格への参加意欲度について、球技大会など行事によっては多くの生徒がかかわることが難しいものもあると思う。満足度は十分高いことから評価はAでもよいのではないか。	
今後に向けての課題	○ 昨年度と同様に、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた中での各大会となったが、今後は現状に応じて競技の精選、運営方法など新しいスタイルとしての企画・運営を行い、本校ならではの課題（科の人数や男女比）を解決する中で、さらに質をあげる工夫を考えていきたい。 ○ 主体的な学校行事の企画・運営を目指して、生徒会の在り方を見直していきたい。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

【定時制】

令和4年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	資格取得を活用した学習指導
現 状	定時制に入学する生徒の多くは、卒業後に本校で学んだ専門的な知識や技能を活かせる仕事に携わりたいと考えているが、工業の専門科目に対して受動的な学習態度になりがちである。そのため工業科の専門的な知識や技術を主体的に学ぶことができるように資格取得を活用し、基礎から応用までの技術について、目標を持たせて取り組ませているのが現状である。また、本校生徒は入学以前の学習のつまずきに起因すると思われる基礎学力不足が影響し、高校での学習内容を既習事項に関連付けて理解することに困難が生じる場面がある。そこで、本校では以前より学校設定教科「生活」で学び直しの意味も含め、漢字の読み書き、計算力、英語の語彙力の伸長と、社会生活における一般教養について生徒が学習する機会を設け、工業の専門科目を学ぶ上での下支えを行っているのがもう一つの現状である。
達成目標	全国工業高等学校長協会主催の検定や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合として 65% 以上【R3年度実績：82.4%、R2年度実績：60.0%】
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面談等を踏まえて学力に応じた受検資格を選定し、生徒本人に目標や受検までの学習計画を設定させ、主体的に学習に取り組めるようサポートする。 ・各種検定の内容と各学科の専門科目の内容を関連づけた指導を行うなど、生徒が継続的に目標に向かう中で達成感を実感できる指導法を模索する。 ・生徒の学習状況から補習計画を立案し、進捗に応じた見直しを図りながら遂行する。 ・学校設定教科「生活」を活用し、基礎学力を土台とした工業の専門的な知識や技能の学習機会を増やす。
達成度	全工協会主催の資格や国家資格に1つ以上合格した生徒の割合 ◎検定合格者数9名（在籍14名）・・・64.3% 【2種目・・・3名（R5.1.31現在） 在校生でのべ45種目】
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の目標にあと少し届かなかったが、個々の生徒に合わせた指導を概ね行うことができた。また、補習も生徒の実情に応じて実施し、サポートに努めた。 ・基礎学力の不足から、資格取得の挑戦に気後れした生徒がいた。基礎学力の伸長と共に、挑戦する意欲を高める取り組みがさらに求められる。
評 価	B 年度当初の達成目標にはわずかに届かなかったが、概ね方策に沿った効果的な指導が行えたと考える。
学校評議員の意見	○ 今年度、資格取得等に取り組まなかった生徒は何人ぐらいいるのか。合否も大事であるが、取り組むこと自体が大事ではないか。
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○終業式等での受賞伝達式で表彰するなど達成感や成就感が得られる機会をつくる。 ○基礎学力を身に付けさせる取り組みを引き続き行い、個々の生徒の学力に合わせた指導やサポートを実践していく。 ○キャリア教育の一環として、資格取得に挑戦する意識をさらに喚起する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

【定時制】

令和4年度 富山工業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の確立	
現 状	<p>家庭生活や生育歴、学校生活や社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、生活設計が困難になり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する意識が希薄になるときがあるが、授業の遅刻や早退は減少傾向にある。</p> <p>最近では、自分の将来を考え、年間を通して無欠席で意欲的に学校生活を送る生徒が増えており、皆勤・精勤生徒の割合は50%を超える状況である。今後も基本的な生活習慣を確立し、自主自律を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実に繋がると考える。</p>	
達成目標	<p>年間の皆勤・精勤生徒の割合 57% 以上 (14人中8人)</p> <p>【R3年度実績：53%、R2年度実績：33%、R1年度実績：33%、30年度実績：46%】</p> <p>*皆勤 = 1カ年の欠席が0日 *精勤 = 1カ年の欠席が3日以内 (皆勤・精勤においては欠課時数4で欠席1日として換算する)</p>	
対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から生徒とのコミュニケーションを積極的にとり、生活実態の把握に努める。 ・授業の遅刻や早退がないよう声かけ指導、校内巡視等を随時行う。 ・将来を見据えた進路指導を行うことで、基本的な生活習慣の大切さを自覚させる。 ・健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ・スクールカウンセラーや保護者と緊密な連絡体制をとり、問題等の未然防止に努めるほか、問題等が発生したときは、状況に応じて早期に対策を施す。 ・年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。 	
達成度	今年度の皆勤・精勤生徒の割合：29% (実質登校者数14名中4名 12月23日現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の健康や生活状態を確認 (登校時、ST などでの声かけ) ○ 保護者との連携 (生徒の状況を相互で掌握、速やかに対応) ○ 教育相談 (養護教諭と非常勤カウンセラーとの面談による悩みなどの早期発見) ○ 授業出欠状況の確認と生活指導 (授業担当者による遅刻・欠席時数の集計) 	
評 価	D	<p>目標とする割合57%に対し29%と大きく下回った。4日欠席した生徒が2名、10日以上欠席した生徒が8名いる。</p> <p>日頃から生徒とコミュニケーションをとり、日常の様々な出来事など気軽に話ができる雰囲気作りに努め、生徒理解を深めるなど粘り強く指導を重ねてきた。自己不安、家庭不安があるなど心が不安定で消極的になり、欠席、欠課をしがちな生徒には教員間、スクールカウンセラー、家庭と連携を図り、スピード感を持って対応することをより大切にしてきたが残念な結果になった。今後も、進級、卒業を目指して、少しでも自信と目的意識を持ち、意欲的に学校生活を過ごす生徒が増えるよう、今後も粘り強く指導を継続したい。</p>
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康上の理由で休む生徒と心の問題で休む生徒のすみ分けが必要ではないか。そうであれば、さらに生徒へのフォローが行き届くのではないか。 	
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒個々に応じた生活目標を設定し、日々の生活状況を確認しながら助言する。 ○ 充実感や達成感を与えるよう指導を工夫し、学習活動を行う。 ○ 卒業後の就職を念頭におき、目的意識をもって学校生活を送れるようにする。 ○ 進路決定後の生活習慣の安定化を図る。 ○ 養護教諭およびカウンセラーと連携をとり、生徒のストレスへの対処をスピーディに実施する。 ○ 家庭と連絡を密に取り、家庭環境に留意するとともに、必要に応じて中学校や外部機関と連携を行う。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)